

現場教員の観点から 『ジーニアス総合英語』のここを推す

4 技能育成を意識した 文法書

加藤治之



アクティブラーニングを重視する施策のもと、現在、高校英語教育にはディスカッションやディベートを通じて「交渉能力」を身につけさせることが求められつつあります。それ自体は結構なことです。文法指導に割ける授業時数が減ってきているのも事実です。このような時代の文法参考書はどうあるべきか、2点に絞って考えてみます。

1. 生徒の自主的学習を促すものであること

このためには、生徒が学習しやすい適切な文法項目の配置と説明の readability が求められます。

2. 言語事実を反映していること

廃れてしまった表現の指摘・排除だけではなく、学習項目がどのような場面で使用されるのかについての説明も必要になってきます。

では、『ジーニアス総合英語』は上記2点にどのように応えているのでしょうか？

1. について

全24章中、授業で特に丁寧に取り上げられるべき12章がすべて前半に配置され、かつ BASIC と ADVANCED に分かれています。第13章以降の後半は、授業で必要

に応じて扱われるべき項目です。BASIC には多用される必須項目、ADVANCED には表現の幅を広げる項目が配置されています。必ずしも前者が易で後者が難という単純な分け方ではありません。

readability については紙面をご覧くださいのが手取り早いので、ここではコラムを2種類だけご紹介します。

◆ Question Box

(例) must not が「禁止」、don't have to が「不必要」を表すのはなぜ？ (p. 125) → 否定の作用域に関わる疑問に易しく答えています。

◆ 比べよう！

(例) I forgot. / I have forgotten. / I forget. の違い (p. 97) → 過去形と現在完了形、現在形の根本的な違いに基づいて明快に述べています。

2. について

一例を挙げます。従来 cannot but do と cannot help doing は同列に語られてきましたが、前者は「古い言い方」(p. 579) です。また、同じページにある使用場面の説明や例文から、例えば「タクシーを拾わざるをえなかった」に I couldn't help taking a taxi. は適切でないこともわかるでしょう。

最後に一言。文法学習は文構造や語形だけを理解して終わるものではなく、それに個々の語の意味・語法を重ね合わせてはじめて血の通ったものになります。この意味で、最新の言語事実を提供してくれる『ジーニアス英和辞典』

をバックボーンとして生まれた『ジーニアス総合英語』は、高校生が文法を習得するための良きガイドとなるはずです。

(かとう はるゆき・京都府立嵯峨野高等学校教諭)

文法コア解説やコラム が充実！



吉田健三

1. 文法項目のコアが簡潔明快

英単語の意味を理解し、記憶するのはに接頭辞、接尾辞、語根などの知識が有効ですが、文法項目においても、それぞれのコアの意味を知っていれば、英文の理解や表現にとっても役立ちます。

たとえば、学習者がよく躓く^{つまづ}のが、日本語の「～た」にひきずられて誤用する過去時制と現在完了形との使い分けや、能動態と受動態を機械的に置き換える不自然な英語表現です。

本書では、文法項目のコアの意味が簡潔明快に説明されており、上記のような誤解もすぐに解決できます。

・完了形は時間を線に見る。過去形が表すのが点なら、現在完了形が表すのはいわば線である。現在完了形は現在形 have/has を使うことから、実際は現在形の一つである。過去を表すのは過去分詞の部分である。つまり、現在完了形は「過去に起こったこと (= 過去

分詞の内容)を今も持っている(have/has)」ということを表す。過去から現在につながる時間軸が線のようにとらえられている。

・能動態と受動態は、伝える出来事は同じだが、伝える重点の置き所が異なる(旧情報・新情報と話の流れに着目して区別する)。

ほかに、「不定詞は未来志向である」「動名詞は「動詞+名詞」「分詞は形容詞の働きをする」「比較では、比較対象と比較基準が重要」「冠詞は特定できるかどうか」「前置詞にはイメージがある」等々、これさえ押さえておけば文法の理解が格段に深まる、という明快な解説が魅力です。

2. 100のコラムが充実

Question Box, コミュニケーション・リーディング・ライティングのコツ、比べよう!, 英語の発想, といったコラムが充実し、読解や表現を助けるだけでなく、英語への興味を高めてくれます。

・pleaseと「～してください」(×Please go straight and turn left at that corner. 不可の理由は本書を参照してください, p. 41)

・Does he speak English or Spanish? の意味は2通り?(A:話し手の前提が決め手, p. 39)

・① There was nothing to do. と② There was nothing to be done. の違いは?(A:①は「何もすることがない」②は「手の打ちようがない」, p. 200)

・The book sold quickly. のsoldはwas soldでなくてよい?(A:受動態が事実を述べるのに対して、能動態の方は「動詞+副詞」で表される内容を実現できるだけの「潜在能力」が主語にあることを表す, p. 162)等々。

『ジーニアス総合英語』は、英語の初学者から上級者まで幅広く、学んで楽しめる参考書です。(よしだ けんぞう・神戸大学アドミッションセンター特命准教授)

今求められる「総合英語」の役割



富永 幸

現行の学習指導要領が導入され、4技能を統合的に指導する授業が本格的に始まって5年目となります。文法はコミュニケーションを支えるものである、という認識は定着してきている一方で、実際に使用する場面とリンクさせた文法指導は、いまだに悩ましい部分です。豊富なコミュニケーション活動、使用場面に応じた適切な表現の使い分け等、文法指導において考慮すべきことが変化しています。同様に、「総合英語」は、ターゲットとする文法の「機能や働き」に着目し、実際の使用場面を想定した解説を通して、学習者の表現力の涵養を支援することが求められています。

『ジーニアス総合英語』では、本文はもちろんのこと、各章のINTRODUCTIONや100項目のコラムでも、「形」だけではなく「機能や働き」に注目した解説にこだわりました。例えば、助動詞の章のINTRODUCTIONでは、「文法的な働きをするものと、話し手の気持ちや判断を付け加えるものとの2種類がある」としたうえで、「話し手の気持ちや判断を表す」という機能を具体例を挙げて説明しています。Question Boxで、「日本語を話せますか。」

と尋ねるのに“Can you speak Japanese?”ではなく“Do you speak Japanese?”の方がよく使われる背景を、前者は「あなたは日本語を話せないといけない」という意味合いを持つてしまうからだ」と解説しています。これも助動詞が「話し手の気持ちや判断を示す」からこそコミュニケーションにおいて注意しなければならない点です。

形だけに注目することによって生徒が誤解しがちな点についても、丁寧な説明を心がけました。例えば、仮定法といえばif節から始まるものという思い込みからif節のない仮定法を苦手とする生徒は多いのですが、仮定法の章のINTRODUCTIONでは、「<仮定法=if>ではない」としたうえで、「事実と反することを心に思い描く場合」が仮定法だと述べています。さらに、仮定法過去において過去形を使う理由として、過去形は現在からの「時間的な距離」を感じさせるものであり、仮定法過去の場合は、「時間的な距離」を表す形が「現実からの距離」を表す役割を担い、現在の事実から切り離された事柄を表すのに過去形が使われると述べられています。

こうした「形」の背景にある「機能や働き」の理解と豊富なコミュニケーション活動が両輪となつてこそ、学習指導要領が目指す「表現力」の涵養が実現するのだと思います。文法指導についての悩みを先生方と共有する教員の一人としても、『ジーニアス総合英語』が授業作りのパートナーとなることを大いに期待しています。(とみなが みゆき・滋賀県立膳所高等学校教諭)